

小沢一郎代表挨拶「森ゆうこを後継指名」(書き起こし)

平成 25 年 5 月 26 日 森ゆうこサポーターズ総決起集会
新潟ユニゾンプラザ 於いて

7月の参議院選挙には、森ゆうこ君を何としても当選させるぞ、そういう意気込みと熱気にあふれた幹部の皆さんによります総決起集会、こうして盛大に開催されますことを、本当に、ご本人はもちろんですが、友人として、同志として私も大変うれしく、そして皆様に心からお礼を申し上げるものであります。本当にありがとうございました。

森さんは、すでにもう皆様ご承知のとおり、彼女の論理の明白さ、舌鋒の鋭さ、そして行動力、本当に衆参の議員多数おりますけれども、彼女の右に出る人はいない、私はそう思っています。皆様のお力のおかげで、皆様がお力を貸していただいて、育てていただいたおかげで、本当に素晴らしい、まさに政治家らしい、そして政治家と呼ぶにふさわしい、私は、彼女はこの12年間の間に成長したと、そのように思っております。

その意味におきましても、苦しい苦しい2度の選挙戦を支えて当選させてくれた今日会場へお越しの皆さん、そして多くの県民の皆さんに、心から私も感謝を申し上げたいと、そのように思う者のひとりでございます。

また、森君は、本当に私自身にとりましても、個人にとりましても、最大の信頼する同志であり、友人であります。そして、それと同時に、個人的なことを申し上げて恐縮ですが、本当に最大の恩人でもある、そう思っております。

皆さんもご承知のとおり、私は3年半、小沢一郎を抹殺しろという官僚、国家権力の迫害に遭ってきました。私はこんな無法なことに負けてたまるか、という思いで頑張ってきましたけれども、その時、私と一緒に権力を相手に敢然として闘ってくれたのが、皆さんの森ゆうこさんであります。これはですね、本当に言うべくして、検察や警察とですね、直接対峙して、これらと闘うちゅうのは本当に普通の政治家ではできません。私はその意味において、心から本当の同志というものはありがたいものだ、そういう思いで一杯であります。おかげで、ご承知のとおり、私も晴れて、天下晴れて無罪になることができました。

もちろん、これは私個人の問題ではありません。このような官僚の権力を乱用した横暴がまかり通っていたんでは、日本には永久に民主主義が定着しません。そういう意味において、森君は、その民主主義のために、日本において正義が本当に実行されるように、そういう思いの中で、共に闘ってくれたものと思います。

いずれにいたしましても、本当に彼女は政治家として皆さんが思う以上に力をつけてきました。私も当選してから12年で自分を振り返ってみますと、はたして森君のよう

な働きをできたかなあと、そう思うんですけども、とてもたぶん、私はなしえなかったと思います。しかしながら、森君は皆さんのお力で当選させてもらった、そのことを常に心に刻んで、そして努力してきたからこそ、私は、こんにち、誰もが認める、与野党通じて彼女の实力はみんなが認めるところとなりました。

本当に私は今こんなことを言ってなんですが、その思想、哲学におきましても、政治家としての行動力におきましても、私は、自分の次の世代を立派に引き継いでいける人だとそのように思っております。まあこのような彼女に対してですね、女性にしておくのは惜しいという人もいます。しかし私はそうは思いません。女性であるからこそ、大和撫子であるからこそ私は彼女がまさに光るのだと思います。

そういう意味において、本当に日本のサッチャーとして、そしてメルケルとして、いずれ日本の政治を、責任を持って実行していく立場に、ぜひとも彼女を、そういう政治家に育てあげたいというのが私の夢であります。

どうか皆様におかれましても、これはみんなの前だからお世辞で調子のよいことを言っているのではありません。本当に多くの人々が認める彼女であります。どうか皆様のお力添えを今後ともお願いを申し上げます。

.....